

## 【新規規制基準適合性審査への対応状況】

- ✓安全確保を大前提とした泊発電所の早期再稼働に向け、原子力規制委員会の審査に真摯に対応しています。
- ✓2023年6月9日の審査会合で、基準地震動の策定に関する当社評価の説明を行い、原子力規制委員会より「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただきました。引き続き、基準津波の策定等に向け説明していきます。

## 【今後の対応】

- ✓電気料金値下げによるお客さまのご負担軽減や電力の安定供給のため、さらにはカーボンニュートラルの実現に向け、早期再稼働を実現できるよう、引き続き、審査対応に総力をあげて取り組んでいきます。
- ✓2022年5月31日札幌地裁から、泊発電所の運転差止めを認める判決が出されました。当社は同年6月2日札幌高裁に控訴しており、裁判所のご理解を得られるよう説明していきます。

## 今後の主要な審査項目と原子炉設置変更許可に向けた審査の流れ

- 津波等の審査対応を行い、基準津波の策定等を進めていく。
- プラント施設については、基準地震動と今後策定する基準津波をもとに、その影響を評価していく。
- これらの説明を2024年4月までに実施することとしている。

	審査項目	主な説明事項	
地震・津波等	地震	基準地震動の策定 <b>概ね説明済み※1</b>	原子炉設置変更許可
	津波	地震による津波と陸上地すべりによる津波の組合せの評価 〔日本海東縁部に想定される地震による津波の評価については概ね説明済み※1〕 基準津波の策定	
	火山	火山活動の可能性評価 降下火砕物（火山灰）の層厚の評価	
プラント施設	耐震設計方針 耐津波設計方針	防潮堤の設計方針、 津波により防波堤が損傷した場合の影響評価 等	プラント施設への地震・津波の影響を評価※2
	設計基準対象施設 重大事故等対処施設	地震・津波の影響確認、 最新の審査知見の反映 等	

※2 降下火砕物（火山灰）層厚の影響を含む

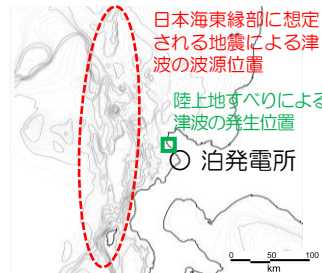
※1 「概ね説明済み」・・・原子力規制委員会から「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただいている

## 審査対応状況

### 津波評価

#### 【地震による津波と陸上地すべりによる津波の組合せの評価】

- 基準津波の策定に向け、日本海東縁部に想定される地震による津波と陸上地すべりによる津波の組合せの評価結果を説明する。
- 2023年3月24日の審査会合で、評価結果に関する分析※4について説明し、「組合せ後の水位に影響の大きい波源が選定できているのかについて根拠を明確にしたうえで説明すること」などのコメントをいただいた。引き続き検討し、今後の審査会合などで説明していく。

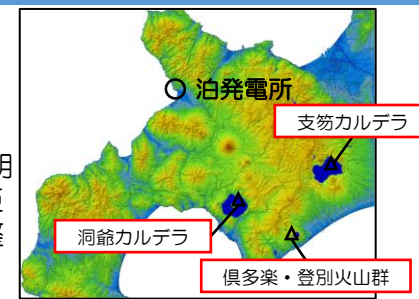


※4 地震単独による津波では最大の高さだった検討ケースが、陸上地すべりによる津波と組合せた場合には最大とならないなどの結果が発生している要因について分析を実施した

### 火山影響評価

#### 【火山活動の可能性評価、降下火砕物（火山灰）の層厚の評価】

- 火山影響評価ガイドの改正を踏まえた火山活動の可能性評価、実効性のある火山のモニタリング手法および降下火砕物（火山灰）の層厚評価について説明する。
- 2023年7月7日の審査会合で、火山活動の可能性評価について説明し、「巨大噴火の可能性評価については、活動履歴を含めて、“巨大噴火が差し迫った状態ではないこと”を判断した論理を明確に整理し説明すること」などのコメントをいただいた。
- 引き続き検討し、今後の審査会合などで説明していく。



＜巨大噴火の可能性評価対象火山＞

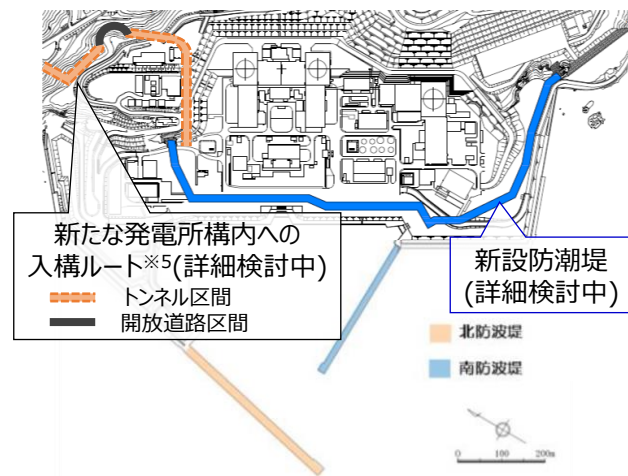
### プラント施設への地震・津波の影響評価

#### 【防潮堤の設計方針】

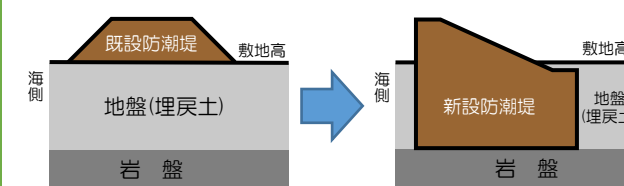
- 安全性をより一層高める観点から、岩着支持構造（堅固な岩盤に支持させる形式）による防潮堤に変更することとしている。
- 2023年2月2日の審査会合で、津波による漂流物（船舶など）が防潮堤に衝突することを想定した対策などについて説明し、「基準津波が確定した後、漂流物の評価対象が決まった時点で改めて説明すること」などのコメントをいただいた。
- 引き続き検討し、今後の審査会合などで説明していく。

#### 【津波により防波堤が損傷した場合の影響評価】

- 津波により防波堤が損傷した場合の発電所設備への影響について、今後、防波堤の移動や沈下に関する解析や水理模型実験の結果を用いて審査会合などで説明していく。



※5 新設防潮堤設置に伴い、既存の入構ルートが津波の影響により使用不可となることを想定し、津波の影響を受けない入構ルートとして新たに設置するもの



＜変更の概要＞

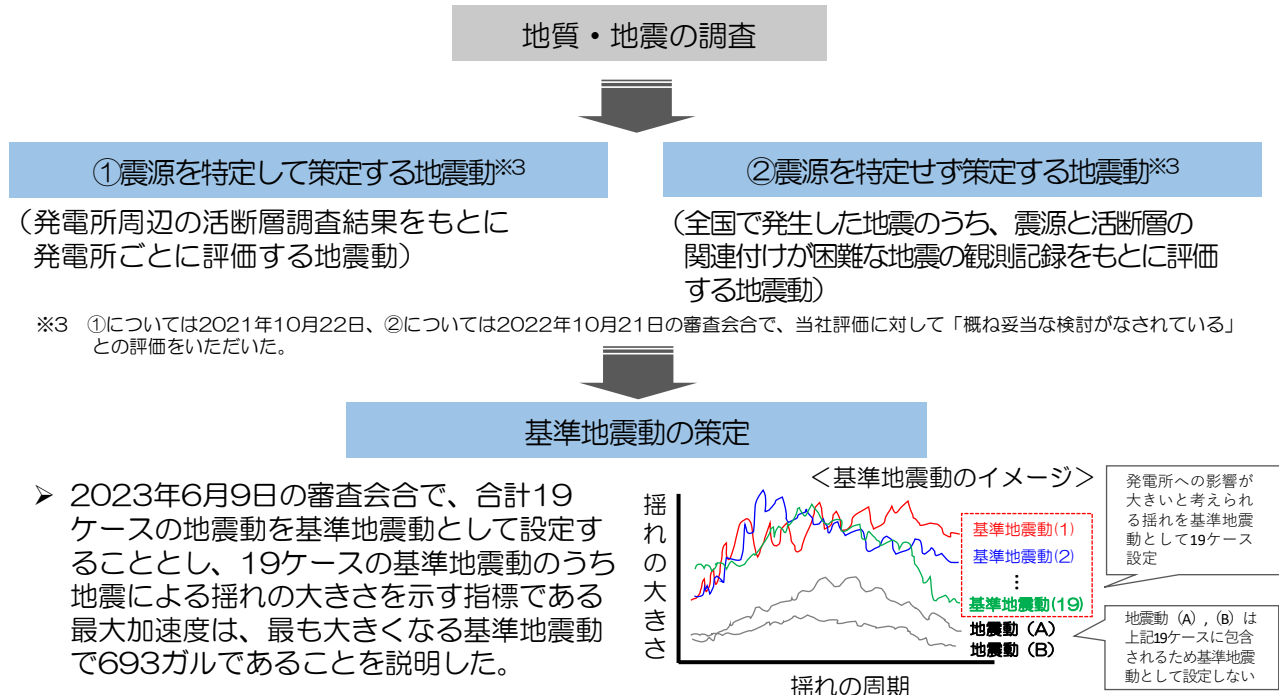
＜泊発電所防潮堤・防波堤配置図＞

既設防潮堤は、2022年3月から撤去工事を開始し、同年11月に概ね撤去が完了している。新設防潮堤の設置までの期間における津波への安全対策として、設置済みの建屋の水密扉で浸水を防ぐ。また、使用済燃料は津波の影響を受けない海拔31m以上に保管していることに加え、送水ポンプ車による冷却水の補給も可能とするなど多様な冷却手段を確保し、万全を期している。

## 地震動評価

### 【基準地震動の策定】

- 基準地震動（発電所に大きな影響を与えるおそれがある地震の揺れ）は「震源を特定して策定する地震動」および「震源を特定せず策定する地震動」の評価結果を踏まえて設定する。



当社評価に対して、「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただいた。  
(2023年6月9日審査会合)

- 今後、設定した基準地震動によるプラント施設への影響を評価していく。